

全学科			ものづくり基礎				
学年	第1学年	担当教員名	機械工学科全教員・鈴木 俊哉・工藤 信博・千田 和範・坂口 直志・戸谷 伸之・松本 和				
単位数・期間		4単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		機械・電気・電子・情報・建築の5学科について、それぞれの学科の初歩を体験的に学習することにより自分の学科希望の参考とするとともに、自分の将来の専門分野外の基本的な知識を得ることを目的とする。					
		釧路高専目標		JABEE目標			
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		1学科3週間とし、前期・後期それぞれ5学科すべてを体験的に学習する。短期間でひとつのテーマが完結するので、集中して取り組むこと。自分の進みたい道を確認するための重要な体験であり、同時に他の分野ではどのようなことを学習するのかを知る数少ない機会である。すべてに積極的に参加し、視野を広げる努力をすること。					
到達目標		5学科すべてを体験的に学習し、それぞれの学科の特徴を理解するとともに、自分の希望学科決定の材料とする。					
成績評価方法		5学科それぞれが100点満点で評価し、その単純平均を総合評価とする。それぞれの学科の評価方法は各学科の初回授業時のガイダンスで示す。					
テキスト・参考書		それぞれの学科において、プリント等を配布する。					
メッセージ		2学年進級時の学科選択における自己決定の重要な要素となる科目である。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
それぞれの学科が以下のテーマで行う。詳細は各学科の初回授業時のガイダンスで指導する。 機械 (前期)面白授業、(後期)メカニズム・コンテスト 電気 (前期)デジタルテスターの製作、(後期)電磁力ロケット打上げコンテスト 電子 (前期)音楽AMPで鳴らそう、(後期)熱電くん 情報 (前期)Processingによるグラフィックスプログラミング、(後期)ロボラボによる制御プログラミング 建築 (前期)make a model ～有名建築～、(後期)モルタル de ZOKEI							
前期中間試験							
前期期末試験							
後期中間試験							
後期期末試験							

全学科			コンピュータリテラシー				
学年	第1学年	担当教員名	片岡 秀文・新任教員・佐々木 敦・佐藤 英樹・佐藤 慎悟・浅水 仁・林 裕樹・土江田織				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		学生生活におけるレポート作成等で必要性の高い、ワープロ・表計算・プレゼンテーションツールの基礎的な使用方法を理解するとともに、情報社会におけるネットワークセキュリティや情報モラルについての認識を高める。					
		釧路高専目標	C:70%,F:30%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		演習形式の授業なので休むことの無いように留意し、止むを得ず休んだ場合には担当教員から課題提出などの指示を受けること。授業の初めに設定したパスワードは紛失や盗難しないよう責任を持って各自で管理すること。課題の提出は原則授業時間内であるが、終らなかった場合は速やかに放課後などを利用して行い提出すること。各自で作成した課題はUSBメモリーなどでバックアップを取る事が望ましい。					
到達目標		インターネット、ネットワーク利用に関するモラルやマナー、知的所有権等について理解できる。電子メールやネットブラウザなどのインターネット環境を充分に利用でき、代表的なオフィスアプリケーションソフトであるマイクロソフト社のワード、エクセル、パワーポイントの基本的な操作方法が理解できる。さらにレポート類や各種発表における資料の作成に活用できる。					
成績評価方法		合否判定:全ての課題を提出し、全課題の評価の平均点が60点以上であること。 提出期日より遅れて課題を提出した場合、その課題の評価を減点する。 最終評価:全課題提出物の平均(100%)					
テキスト・参考書		教科書:毎日コミュニケーションズ 速攻! パソコン講座 ワード2007 速攻! パソコン講座 エクセル2007 速攻! パソコン講座 パワーポイント2007					
メッセージ		最初は、コンピュータ操作の経験によっては大きく差が生じます。しかし、遅れ気味な人でも着実に演習を消化していけば、充分なスキルが身に付きます。休まない、授業中は集中する、演習に手を抜かないなどの基本的な学習姿勢が大切です。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1.ガイダンスとパスワード設定 2.インターネット講習会 3.インターネットの利用 4.ワード1:文字入力,文字列のコピーと貼り付け 5.ワード2:文字装飾,文章のレイアウト 6.ワード3:図,表,写真などの挿入 7.エクセル1:エクセルの基本操作1				1.パスワードの設定,ログイン/ログアウトができる。 2.インターネット利用上のルールとマナーを理解して利用できる。トラブルに対しての予防・対処ができる。 3.WWWを利用した効率的な情報収集ができる。電子メールおよびMoodleのサービスを理解し利用することができる。 4.文字の入力,文字列のコピーと貼り付けができる。 5.文字の大きさ,色,書体,文章のレイアウトを変更できる。 6.図,表,写真等を文中に挿入し,レイアウトを整えた総合的な文章が作成できる。 7.基本画面・構成が理解でき簡単なデータの入力を行うことができる。			
前期中間試験				実施しない			
8.エクセル2:エクセルの基本操作2 9.エクセル3:表計算と関数の基礎 10.エクセル4:グラフ作成方法の基礎 11.ワードとエクセルの複合問題 12.パワーポイント:パワーポイントの基本操作1 13.パワーポイント:パワーポイントの基本操作2 14.プレゼン資料の作成,プレゼンテーション1 15.プレゼンテーション2				8.書式設定や罫線の引き方,セルの扱い方が理解できる。 9.四則演算や簡単な関数を用いた演算ができる。 10.グラフの基本的な作成方法とカスタマイズの方法が理解できる。 11.図表,グラフが混在する報告書を作成できる。 12.基本画面・構成が理解でき簡単なスライドを製作できる。 13.スライドに写真や図表が挿入でき,アニメーションなどを使った効果的なスライドが作成できる。 14,15.プレゼンテーションの方法やリハーサル機能について理解できる。			
前期期末試験				実施しない			
後期中間試験				実施しない			
後期期末試験				実施しない			

全学科			英語				
学年	第1学年	担当教員名	吉田 茂				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		中学校で習得した基本的英文法の知識を発展させ、その定着を図る。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		英文法の説明と演習問題解説が主な授業内容である。毎回小テストを実施するので、復習を必ず行なうこと。					
到達目標		基礎的英文が読めて、理解できる英文法力を取得すること。					
成績評価方法		(吉田分:定期試験80%、小テスト20%で評価する) 総合評価:片岡、沼田、吉田の各クラスの成績を加えた点数を100点に換算し、それに0.6を掛け(A)、単語テストの総点を20点満点に換算(B)し、英検テストの総点を20点満点に換算(C)し、総合評価をする。A+B+Cで60点以上を合格とする。					
テキスト・参考書		教科書:授業内で配布するプリントを使用する 参考書:チャート式ラーナース高校英語 (数研出版) 参考書:ロイヤル英文法 旺文社					
メッセージ		大量の英文に接するが、必要量である。復習を必ず行なうこと。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1 文型、基本時制、助動詞、態 (授業回数6回)				左記の文法事項を理解でき、演習問題が解ける。			
前期中間試験				実施する			
1 不定詞、分詞、動名詞 (授業回数9回)				左記の文法事項を理解でき、演習問題が解ける。			
前期期末試験				実施する			
1 比較、関係代名詞、関係副詞、(授業回数8回)				左記の文法事項を理解でき、演習問題が解ける。			
後期中間試験				実施する			
1 仮定法、強調構文、無生物主語、(授業回数7回)				左記の文法事項を理解でき、演習問題が解ける。			
後期期末試験				実施する			

全学科			英語				
学年	第1学年	担当教員名	片岡 務				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		ほぼ毎回実施する単語テストを通して、英単語・英熟語の知識を強化し、さらに英語検定形式の練習問題（前期は英検3級レベル、後期は英検準2級レベル）を数多く解いていくことによって、検定試験に合格できる英語力をつけるとともに、英語によるコミュニケーションを行なえるようになるための基礎力を養成する。適宜、速読教材やリスニング教材も活用する。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		単語テストの結果は成績に大きく係ってくるので、事前の準備を怠らないこと。授業では、毎回、配布する自主教材（プリント）を利用する。かなりの枚数になるので紛失しないようファイルを準備し、渡されたプリントは確実に綴じこんでおくこと。毎回課題を課すが、必ず期限までに提出すること。正当な理由がなく期限を過ぎた場合には受理しない。					
到達目標		英語検定準2級レベルの英語に対応するために必要な英語力（特に単語・熟語の知識や英文読解力、聞き取り能力）の基礎を習得し、その英語力を随時発揮できる。					
成績評価方法		本授業の評価は、定期試験の平均点100%とする。 ただし「英語」としての評価は、片岡と沼田と吉田の各授業での成績評価の平均点を60%、単語テストの成績の平均点を20%、英検テストの成績の平均点を20%としてその合計点で、60点以上を合格とする。 最終評価は、合格点を取った者についてのみ、本授業での課題の提出状況、授業					
テキスト・参考書		テキスト：「英検Pass 単熟語3級[改訂新版]」（旺文社） ：「英検Pass 単熟語準2級[改訂新版]」（旺文社） ：自主教材					
メッセージ		英語力の基本は、単語・熟語の知識です。ある程度の単語熟語力がなければ英文を読むことも英文を聞き取ることも困難です。着実に語彙を増やしていってください。語彙を増やすことと同時に多くの英文に接することが英語力をつけるには不可欠です。授業外でも英文に接する機会をできるだけ作るようにしてください。（図書館には格好の教材がそろっています。）					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
・単語テスト(英検三級) ・英検三級レベルの練習問題 ・速読、リスニング (6回)				・単語熟語の意味を答えることができる ・練習問題の正答に至るプロセスが理解できる。 ・練習問題の英文の意味を理解できる。 ・文章の大まかな内容を把握できる(速読) ・文章の大まかな内容を聞き取れる(リスニング)			
前期中間試験				実施する			
・単語テスト(英検三級) ・英検三級レベルの練習問題 ・速読、リスニング (9回)				・単語熟語の意味を答えることができる ・練習問題の正答に至るプロセスが理解できる。 ・練習問題の英文の意味を理解できる。 ・文章の大まかな内容を把握できる(速読) ・文章の大まかな内容を聞き取れる(リスニング)			
前期期末試験				実施する			
・単語テスト(英検準二級) ・英検準二級レベルの練習問題 ・速読、リスニング (8回)				・単語熟語の意味を答えることができる ・練習問題の正答に至るプロセスが理解できる。 ・練習問題の英文の意味を理解できる。 ・文章の大まかな内容を把握できる(速読) ・文章の大まかな内容を聞き取れる(リスニング)			
後期中間試験				実施する			
・単語テスト(英検準二級) ・英検準二級レベルの練習問題 ・速読、リスニング (7回)				・単語熟語の意味を答えることができる ・練習問題の正答に至るプロセスが理解できる。 ・練習問題の英文の意味を理解できる。 ・文章の大まかな内容を把握できる(速読) ・文章の大まかな内容を聞き取れる(リスニング)			
後期期末試験				実施する			

全学科			英語				
学年	第1学年	担当教員名	沼田 敦				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		教科書とその他の自主教材(文法用教材、文法練習問題、速読用教材、英検用練習問題など)を活用して、基礎的な単語・熟語、基本的な文法知識の習得、平易な英文の読解力の向上、易しい英語による表現力の養成、またリスニング教材を適宜用いて聞き取り能力の向上を図る。 そして以上のことにより、論理的な文章を英語で記述したり英語でコミュニケーションを行えるようになるための基礎的な英語力の養成を目指す。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		・年間3回(7月上旬、11月下旬、2月中旬)、英語検定形式の実力試験である「英検テスト」を実施する。 ・随時、理解度の確認のために様々な小テストを行う。 ・一回の授業の中で、複数種の教材を使って活動を行う。 ・私語・飲食・居眠り等、授業の秩序を乱す行為を行った者には退出を命じることがある。					
		到達目標					
成績評価方法		本授業の評価は、定期試験の平均点100%とする。 ただし「英語」としての評価は、片岡と沼田と吉田の各授業での成績評価の平均点を60%、単語テストの成績の平均点を20%、英検テストの成績の平均点を20%としてその合計点で、60点以上を合格とする。 最終評価は、合格点を取った者についてのみ、本授業での課題の提出状況、授業					
テキスト・参考書		テキスト:Powow English Course I (文英堂) :英検pass単熟語集3級・英検pass単熟語集準2級 (旺文社) 参考書 :ジーニアス英和辞典 (大修館)					
メッセージ		・授業では教科書以外にも多くの教材(プリント)を使用します。渡された教材はなくさないように、確実にファイル等に綴じ込んでおいてください。 ・一年生の前期は、英語の基本事項の定着を図る期間と位置付けます。基本の再確認、基本からの学び直しに努めてください。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1.教科書Lesson 1, 2 2.文法:不定詞、受動態 現在分詞・過去分詞 3.速読用教材 4.リスニング用教材 5.英語検定3級実践問題 6.「3級単語テスト」No.1～5 *1.～6.を並行して行う(21回)				1.各レッスンの英文の概要を的確に把握できる 各レッスンの英文を適切に読むことができる 各レッスンの英文を参考にして簡単な英文を作ることができる 2.各文法事項の基本的な内容を理解できる 3.与えられた時間内に文章の概要を把握できる 4.英文を聴き、その発話内容を聞き取れる 5.各設問の正答にいたるプロセスを理解できる 6.単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える			
前期中間試験				実施する			
1.教科書Lesson 3, 4 2.文法:現在完了形 S+V+O+O S+V+O+C 関係代名詞 3.速読用教材 4.リスニング用教材 5.英語検定3級実践問題 6.「3級単語テスト」No.6～8 *1.～6.を並行して行う(23回) 7.第1回英検テスト(1回)				1.各レッスンの英文の概要を的確に把握できる 各レッスンの英文を適切に読むことができる 各レッスンの英文を参考にして簡単な英文を作ることができる 2.各文法事項の基本的な内容を理解できる 3.与えられた時間内に文章の概要を把握できる 4.英文を聴き、その発話内容を聞き取れる 5.各設問の正答にいたるプロセスを理解できる 6.単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える			
前期期末試験				実施する			
1.教科書Lesson 5,6 2.文法:現在完了進行形 S+V+O S+V+O+O 関係副詞 3.速読用教材 4.リスニング用教材 5.英語検定準2級実践問題 6.「準2級単語テスト」No.1～3 *1.～6.を並行して行う(21回) 7.第2回英検テスト(1回)				1.各レッスンの英文の概要を的確に把握できる 各レッスンの英文を適切に読むことができる 各レッスンの英文を参考にして簡単な英文を作ることができる 2.各文法事項の基本的な内容を理解できる 3.与えられた時間内に文章の概要を把握できる 4.英文を聴き、その発話内容を聞き取れる 5.各設問の正答にいたるプロセスを理解できる 6.単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える			
後期中間試験				実施する			
1.教科書Lesson7,8 2.文法:強調構文 助動詞+受け身 関係代名詞 分詞構文 3.速読用教材 4.リスニング用教材 5.英語検定準2級実践問題 6.「準2級単語テスト」No.4～7 *1.～6.を並行して行う(23回) 7.第3回英検テスト(1回)				1.各レッスンの英文の概要を的確に把握できる 各レッスンの英文を適切に読むことができる 各レッスンの英文を参考にして簡単な英文を作ることができる 2.各文法事項の基本的な内容を理解できる 3.与えられた時間内に文章の概要を把握できる 4.英文を聴き、その発話内容を聞き取れる 5.各設問の正答にいたるプロセスを理解できる 6.単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える			
後期期末試験				実施する			

全学科			音楽				
学年	第1学年	担当教員名	高橋 久美子				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修選択	履修単位
授業の目標と概要		音楽美を理解し、感得することで創造的活動と知的陶冶に結びつけ、高尚な美的情操と豊かな人間性を養うことに目標を置く。生活の中に高尚な趣味を持ち、美的判断を高め、円満な人間形成ができるようになる。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		リコーダー、ギターキーボードを大切に使用する。 音を出すことに責任を持てるようにする。					
到達目標		音楽の基本的な表現に必要な技術を修得できる。 音楽経験を豊かにするために必要な知識を理解できる。 優れた音楽に親しみ、音楽の美しさを味わって聞くことができる。					
成績評価方法		前期の基礎的実技テスト(個人の歌唱、器楽奏、グループ奏) 30％ 後期の応用的実技テスト(個人の作曲、グループ作曲、指揮等) 30％ 音楽史、楽典、聴音などの学習時の提出物 30％ 授業態度 10％					
テキスト・参考書		教科書:高校音楽 改訂版(教育出版) DVD、CD、総譜など					
メッセージ		実技の練習は効率的に行なうこと。 友人同士で助け合うことが大切です。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1 音楽のなりたち アフリカの音楽 (1回) 2 日本の音楽 滝廉太郎・山田耕作の世界(2回) 3 歌曲の表現 (2回) 4 器楽曲の表現 (2回) 5 ヨーロッパの音楽(導入) (1回)				・音から音楽について知る。新曲のリズム奏をできる。 ・雅楽から現代曲まで学ぶことができる。 ・曲の意味を理解し、正しく演奏できる。 ・楽器の特性を知り、生かして演奏できる。 ・「サウンド・オブ・ミュージック」の鑑賞ができる。			
前期中間試験				実施しない			
6 ドイツの音楽 (1回) 7 聴音から記譜の方法 (2回) 8 イタリアの音楽 (1回) 9 調性について、友人と作曲する (2回) 10 フランスの音楽 (1回)				・代表的作曲家3大Bについて学ぶことができる。 ・楽曲を知ることができる。 ・イタリア語で歌うことができる。 ・グループで考えて、短い曲を作ることができる。 ・ショパンについて学ぶことができる。			
前期期末試験				実施しない			
11 スペインの音楽 (1回) 12 コードを組み立てる (2回) 13 ロシアの音楽、東洋の音楽 (1回) 14 北欧の音楽 (1回) 15 イギリス、アメリカの音楽 (2回)				・「カルメン」を鑑賞できる。 ・ギターやキーボードに生かし、演奏できる。 ・拍子の学習をし、指揮の練習ができる。 ・「グリーンズリブス」のアンサンブルができる。			
後期中間試験				実施しない			
16 聴音からの創作 (2回) 17 南米の音楽 (1回) 18 形式について 和音の使い方 (2回) 19 アジアの音楽 (1回) 20 作詞、作曲表現として押し絵をつける (2回)				・友人の曲を聞き合う。 ・歌詞と音符を正しく使うことができる。 ・コード進行を考えて短い曲を作ることができる。 ・リズム、メロディ、ハーモニーを理解し、実践できる。 ・正しく記譜することができる。			
後期期末試験				実施しない			

全学科			化学				
学年	第1学年	担当教員名	加藤 隆・坂本 博明・坂田 澄雄				
単位数・期間		3単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		化学的に探求する態度と、基本的な概念や原理・法則を学習してもらいます。そして、日常生活においても科学的な見地から対処できるようにしてもらいます。講義は、教科書に沿って行います。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		2時間授業と1時間授業を各週1回行います。中学校卒業程度の知識を必要とします。化学専用のノートを用意して下さい。					
到達目標		物質の基本的な構造を粒子的に理解でき、化学反応の仕組みを具体的な反応を通して理解できる。物質の性質や反応を理解することを通してその利用や役割を考える事ができる。					
成績評価方法		定期試験(4回)の平均が60点以上を合格とする。その他の加点、減点については最初の授業にて説明します。					
テキスト・参考書		教科書;文科省検定済教科書高等学校化学1(東京書籍) 副教材;ニューアシスト 化学1(東京書籍)					
メッセージ		試験は1年生共通の問題を使います。従って、授業の内容は多少変更する可能性があります。積極的に授業に参加してください。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
ガイダンス(1回) 物質の構成(3回) 原子の構造と化学結合(4回)			講義の概要が把握でき、化学の全体を理解する事ができる。 物質の分離法を学び、いろいろな物質を分離する事ができる。 純物質と化合物、混合物について理解し、物質を分類する事ができる。 原子の構造について理解し、原子核、電子配置などを説明する事ができる				
前期中間試験			実施する				
物質量と化学反応式(4回) 化学反応と熱(3回)			物質量について理解し、モルの計算ができる。 化学反応、化学反応式を理解し、物質量との関係が分かる。 反応熱がわかる				
前期期末試験			実施する				
化学反応と熱(2回) 酸と塩基(6回)			熱化学方程式とヘスの法則を学び、熱量の計算ができる。 酸と塩基について学び、pH、中和および塩がわかる。				
後期中間試験			実施する				
酸化還元反応(7回) 無機物質(1回)			酸化と還元の意味がわかり、酸化数の計算ができる。 電池の原理と電気分解がわかり、ファラデーの法則を理解し、電気量の計算ができる。 非金属元素について学び、性質について説明できる				
後期期末試験			実施する				

全学科			技術者基礎				
学年	第1学年	担当教員名	渡邊 聖司・野口 孝文 他・山田 昌尚・大貫 和永・佐藤 彰治				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		2年生になって配属される専門学科で共通して必要とされる技術者のリテラシーを身につけるための科目です。専門学科配属後の4年間の学習を行う上で必要となる基礎的な知識を身につけることを目標としています。					
		釧路高専目標	A:40%,F:60%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		5つの専門学科の教員が3回ずつ担当して計15回の授業を実施します。クラスによって履修の順番が異なり、テーマによって授業を実施する教室が変わることがありますので、事前に確認してください。					
到達目標		技術者としての基礎的なリテラシー(考え方・姿勢・技能・表現力)を身につける。					
成績評価方法		合否判定:5つの各テーマの評価が60点以上であること 総合評価:各テーマの成績を平均して最終評価とします。 テーマごとの評価方法は各テーマの最初に説明があります。					
テキスト・参考書		教科書:最初の授業で配布する。 参考書:図解 技術者の心得,中川義弘,経営書院 「知的な科学・技術文章の書き方」,中島利勝ほか,コロナ社 速効!パソコン講座「エクセル」,毎日コミュニケーションズ					
メッセージ		専門学科の教員が持ち回りで15回の授業を担当します。病気などでやむを得ず休んだ場合には補講や課題を課されることになります。できるだけ休まないようにしましょう。 休む場合は事前に担任に連絡をするようにしてください。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
・技術と社会 1)高専卒技術者の将来像と可能性 2)技術者としての倫理感 3)知的財産権の理解 ・技術者の方法 4)技術者の基礎としての計測実験法(1) 5) 技術者の基礎としての計測実験法(2) 6) 技術者の基礎としての計測実験法(3) ・技術文章 7)技術文章の特徴				1) 高専の特長,社会的使命を理解できる。高専の学習方法,卒業後の進路から将来像をイメージできる。 2) 企業の実態を把握し,技術者の必要性和責務を理解することができる。技術者が関与した社会的な不祥事件からあるべき姿勢を説明できる。 3) 発明の保護の必要性および特許制度を理解する。知的財産の盗用がもたらす社会的影響の大きさを知る。 4)概数の計算ができる。 5)身近にあるものの面積や体積を計測することができる。 6)数値の処理ができ,了解性のある報告書が作成できる。 7)一般的な文章と技術文章の違いを指摘できる。			
後期中間試験				実施しない			
8)コンピュータを用いた技術文章作成 9)正確な表現 ・技術者の考え方 10)Web検索の集合と論理 11)論理的な考え方のための集合と論理 12)関数電卓の使い方 ・表計算の利用したデータの表現法 13)表計算の応用(1) 14) 表計算の応用(2) 15) 表計算の応用(3)				8)コンピュータを使って技術文章を作成できる。 9)事実と意見を区別した表現ができる。 10)Web検索エンジンを使って条件の設定により,論理的に情報を抽出する技術を身につけ,技術の利点を説明できる。 11)Web検索の経験を基にして論理と集合と技術者の思考の関連を説明できる。 12)関数電卓の機能の概要を知り,適切な利用ができる。 13) 複数の系列データを表とグラフで適切に表現できる。 14) 表計算における簡単な論理関数機能が理解でき,利用することができる。 15) 複数の変数の関係を知るための適切なグラフ表現ができる。			
後期期末試験				実施しない			

全学科			国語				
学年	第1学年	担当教員名	小田島 本有・館下 徹志				
単位数・期間		3単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		古今の言語文化に触れ、それを読み解くことを通して、論理的な思考と叙述技法習得のための基礎固めを目指す。また、言葉のきまりにしたがって言語表現を正確に音読するとともに、現代日本語を丁寧に正しく表記する作法を身につける。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		授業中も国語辞典(電子辞書を含む)を活用して語彙を増やし、正確な聴き取りに努めるとともに、言語表現を公平な目で読み解き、考えたことをわかりやすい言葉で説明できるように、読解力、批判的思考力、表現力にも自ら磨きをかけてほしい。					
到達目標		・聴き取りやすい音読ができ、文脈に沿って言語表現を正確に解釈できる。 ・物事を客観的に捉え、根拠を示しつつそれを効果的に表現できる。 ・日本の文化や伝統に関する基本的な教養を身につけることができる。 ・現代日本語を丁寧かつ正確に表記することができる。					
成績評価方法		定期試験の成績(80%)と「読書レポート」(10%)、「表記課題」等、提出物の内容(10%)により評価する。合否判定もこれに同じ。					
テキスト・参考書		テキスト:『探究 国語総合(現代文・表現編)改訂版』(桐原書店) 『探究 国語総合(古典編)改訂版』(桐原書店) 参考書:『新版カラー版新国語便覧』(第一学習社) 『伝わる・揺さぶる! 文章を書く』(山田ズーニー PHP新書180)					
メッセージ		聴く・話す・書くという言葉を用いた表現活動は、他人への気づかいを欠くと、独りよがりな振る舞いとなってしまいます。授業に積極的に参加しながら、さまざまな他者と交流する能力を高めましょう。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1. ガイダンス(1回) 2. ひらめきは、生き生きした心に宿る(6回) 3. 児のそら寝(8回) 4. 表記練習(7回)			1. 授業の目的・到達目標・授業の進め方が理解できる。 2. 正しく音読できる。表題の意味するところが理解できる。 3. 歴史的仮名遣いを用いた文章を正確に音読できる。 登場人物の心情が理解できる。 4. 言葉のきまりにしたがって、日本語を丁寧かつ正確に表記でき、自己添削により、誤記を正すことができる。				
前期中間試験			実施する				
5. 漢文訓読・知音(8回) 6. わかるうとする姿勢(8回) 7. 表記練習(7回)			5. 訓点のきまりにしたがって、書き下し文が書ける。 故事成語「知音」が成立した過程を理解できる。 6. 論理的な文章の組み立てが理解できる。 重要な語句の意味が分かる。 7. 言葉のきまりにしたがって、日本語を丁寧かつ正確に表記でき、自己添削により、誤記を正すことができる。				
前期期末試験			実施する				
8. 羅生門(7回) 9. 徒然草(8回) 10. 表記練習(7回)			8. 登場人物の心の動きを理解できる。 9. 正しく音読でき、筆者の主張が理解できる。 10. 言葉のきまりにしたがって、日本語を丁寧かつ正確に表記でき、自己添削により、誤記を正すことができる。				
後期中間試験			実施する				
11. 殺戮しない類人猿(8回) 12. 漢詩(8回) 13. 表記練習(7回)			11. 論理的記述の方法を理解できる。 重要な語句の意味が分かる。 12. 漢詩のきまりを理解でき、詩の内容が分かる。 13. 言葉のきまりにしたがって、日本語を丁寧かつ正確に表記でき、自己添削により、誤記を正すことができる。				
後期期末試験			実施する				

全学科			数学A				
学年	第1学年	担当教員名	林 義實・池田 盛一・阿部 義美・伊藤 勝夫				
単位数・期間		4単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		数学的な考え方や数式の計算技能を深め、方程式・不等式の解法を学ばせ、関数の概念を理解させる。関数の基本的な性質を習得させ、第2学年からの微分・積分に備える。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		当り前のことであるが、教科書・ノート等を忘れず持参し、授業の内容をきちんとノートすることが大切である。 授業で指示された問いや練習問題を必ず自学自習し、次の授業のときに解答を示せるように準備しておくことを求める。					
到達目標		基礎事項と数学的な考え方を十分理解し、教科書と補助教材の問題の60%は自分の力で解くことができる。					
成績評価方法		試験の点数の平均点によって評価する(100%)。 6割以上の場合、授業態度などを10%までの範囲で加減する。 詳しくは数学の評価規準に基づき別に定める。					
テキスト・参考書		教科書：新訂 基礎数学(大日本図書) 補助教材：新編 高専の数学1問題集(森北出版) 参考書：チャート式 基礎と演習 数学I+A、II+B(数研出版)					
メッセージ		授業の内容を十分に理解するためには、ノートをきちんととり、積極的に質問するように努め、さらに後で復習することが大切である。 授業ノートは数学Bと別にすること。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
ガイダンス(0.5回) 第1章 数と式の計算 ・整式の加法・減法・乗法(3回) ・因数分解(2.5回) ・整式の除法(2回) ・剰余の定理と因数定理(2回) ・分数式の計算(5回)				・整式の四則計算ができる。 ・整式の展開及び因数分解ができる。 ・因数定理を利用して高次式の因数分解ができる。 ・分数式の四則計算ができる。			
前期中間試験				実施する			
・実数、平方根(2回) ・複素数(2回) 第2章 方程式と不等式 ・2次方程式(2回) ・解と係数の関係(2回) ・いろいろな方程式(3回) ・恒等式(2回) ・等式の証明(2回)				・実数の絶対値、平方根の計算および分母の有理化ができる。 ・複素数の四則計算および共役、絶対値を求めることができる。 ・2次方程式の解を判別し、求めることができる。 ・2次方程式の解と係数の関係を使うことができる。 ・いろいろな方程式を解くことができる。 ・恒等式を理解し、等式の証明ができる。			
前期期末試験				実施する			
・不等式の性質と1次不等式の解法、いろいろな不等式(3回) ・不等式の証明(2回) 第3章 関数とグラフ ・関数とグラフ(1回) ・2次関数のグラフと最大・最小(3回) ・2次関数と2次方程式(3回) ・2次関数と2次不等式(3回)				・1次、2次不等式を解くことができる。 ・不等式の証明ができる。 ・2次関数を標準形に直しグラフを書き、最大値・最小値を求めることができる。 ・2次関数と2次方程式の関係がわかる。 ・2次不等式をグラフを用いて解くことができる。			
後期中間試験				実施する			
・べき関数、分数関数、無理関数(5回) ・逆関数(2回) 第4章 指数関数と対数関数 ・累乗根と指数の拡張(2回) ・指数関数(2回) ・対数(3回) ・対数関数、常用対数(3回)				・グラフの平行・対称移動ができ、分数・無理関数のグラフを書くことができる。 ・逆関数を求めることができる。 ・指数法則を用いて、いろいろな指数計算ができる。 ・指数関数のグラフを書くことができる。 ・指数方程式・不等式を解くことができる。 ・対数計算ができる。 ・対数関数のグラフを書くことができる。 ・対数方程式・不等式を解くことができる。 ・常用対数を利用した問題を解くことができる。			
後期期末試験				実施する			

全学科			数学B				
学年	第1学年	担当教員名	山崎 俊博・小谷 泰介・阿部 義美・川中 理樹				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		専門学科ですぐ必要となる三角関数の基本的な性質・公式・グラフを理解し、応用する力を養わせる。 後期後半では平面図形のうち直線の方程式を学習させる。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		当り前のことであるが、教科書・ノート等を忘れず持参し、授業の内容をきちんとノートすることが大切である。 授業で指示された問いや練習問題を必ず自学自習し、次の授業のときに解答を示せるように準備しておくことを求める。					
到達目標		基礎事項と数学的な考え方を十分理解でき、教科書と補助教材の問題の60 %は自分の力で解けるようになる。					
成績評価方法		試験の点数の平均点によって評価する(100 %)。 6割以上の場合、授業態度などを10%までの範囲で加減する。 詳しくは数学の評価規準に基づき別に定める。					
テキスト・参考書		教科書：新訂基礎数学(大日本図書) 補助教材：新編高専の数学1問題集(森北出版) 参考書：基礎と演習数学I + A、II + B(数研出版)					
メッセージ		授業ノートは数学Aと別にすること。 積極的に質問すること。 必ず復習すること。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
ガイダンス(0.5回) ・鋭角の三角比(1.5回) ・鈍角の三角比(2回) ・三角比の相互関係(1回) ・三角形への応用(2回)				・鋭角、鈍角の三角比を求めることができる。 ・三角関数表を使って簡単な応用問題が解ける。 ・正弦定理、余弦定理を利用して、辺や角を求めることができる。 ・三角形の面積を求めることができる。			
前期中間試験				実施する			
・一般角と弧度法(2回) ・三角関数とその相互関係(2回) ・三角関数のグラフ(4回)				・弧度法を理解し、60分法との関係が分かる。 ・一般角を理解し、三角関数の相互関係を説明できる。 ・三角関数のグラフがかけられる。 ・三角方程式、不等式を解くことができる。			
前期期末試験				実施する			
・加法定理(2回) ・2倍角の公式、半角の公式(2回) ・積を和差に直す公式、和差を積に直す公式(2回) ・単振動の合成(1回)				・加法定理とそれに関連する公式を使って計算できる。 ・和差と積の変換ができる。 ・正弦と余弦の2つの三角関数を合成できる。			
後期中間試験				実施する			
・2点間の距離(2回) ・内分点、重心(1回) ・直線の方程式(2回) ・2直線の平行と垂直関係(1回) ・円の方程式(2回)				・2点間の距離を計算できる。 ・内分点や重心の座標を計算できる。 ・直線の方程式を求めることができる。 ・2直線の平行・垂直の関係が分かる。 ・円の方程式を求めることができる。 ・円の方程式から中心、半径を求めることができる。			
後期期末試験				実施する			

全学科			体育				
学年	第1学年	担当教員名	恐神 邦秀				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		各種の運動はその種目によりそれぞれ異なった特性を持っている。こうした特性の違う種目に応じた練習・修得の過程でルール・マナー・安全に対する態度・知識を会得すると共に、体力を高め運動を楽しむ態度を養う。また、協調性・社会性を身につける事を期待する。					
		釧路高専目標	E:50%,F:50%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		講義は全て実技である。実技の実習場所は体育館、屋外(野球場・サッカー場・アイスホッケー場)で行うが、実技にふさわしい服装(運動着・運動靴)で参加すること。					
到達目標		個々人の運動能力や体力に格差が有る事から、一概に設定出来ないが、個々人の体力に応じ、積極的に各種目に参加することができ、運動能力を高めると共に協調性・社会性を身につける事ができる。					
成績評価方法		運動への取り組み状況・意欲・協調性(60%)運動能力等(40%)とし、総合評価を行う。合否判定もこれに同じ。したがって運動が不得手だからといって、評価が下がる事はない。積極的に取り組む事が肝要。					
テキスト・参考書		参考書;イラストによる最新スポーツルール(大修館)					
メッセージ		屋外での種目は、天候により適宜屋内種目に変更する。また運動が得意な人、不得手な人等個人差があると思われるが、得意・不得手にかかわらず積極的に参加すること。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
・ガイダンス、レクリエーション (1回) ・バレーボール (基本練習) (2回) バレーボール (応用ゲーム) (2回) ・体力診断テスト (1回) ・運動能力テスト (1回)				・1年の授業の流れと注意事項 ・オーバー、アンダーハンドパスを正確に行うことができる。 ・サーブを相手コートに入れることができる。 ・チーム内で協力しラリーの多いゲームができる。 ・自己の体力を確認することができる。 ・自己の運動能力を確認することができる。			
前期中間試験				実施しない			
・ソフトボール(基本練習) (2回) ソフトボール(ゲーム) (2回) ・サッカー (基本練習) (2回) サッカー (ゲーム) (2回)				・基本となるスローイングとキャッチングができる。 ・フライやゴロをキャッチすることができる。 ・基本的なルールを理解し、相互審判をしながらゲームを進めることができる。 ・インサイドキック(パス)が正確にできる。 ・身体のいろいろな部分でトラップができる。 ・インサイドかインフロントでシュートを打つ事ができる。 ・ゲームに必要なルールを理解できる。			
前期期末試験				実施しない			
・格技 柔道 基本練習 (2回) 柔道 応用練習 (2回) 柔道 試合 (1回) ・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (2回)				・礼儀作法を理解し、重んじることができる。 ・受身ができる。 ・足技(送り足払い・出足払い)、投げ技(大腰・体落とし・背負い投げ)、寝技(けさ固め・横四方・上四方)ができる。 ・禁止事項を守り、怪我に注意しながら試合ができる。 ・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる。			
後期中間試験				実施しない			
・種目選択(テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (3回) ・アイスホッケー(基本練習) (3回) アイスホッケー(ゲーム) (2回)				・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体種目・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる。 ・スケーティング、ストップ、パス及びシュートができる。 ・怪我に注意しながらゲームを行うことができる			
後期期末試験				実施しない			

全学科			美術				
学年	第1学年	担当教員名	加藤 直樹				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修選択	履修単位
授業の目標と概要		心をこめた創造的な作品づくり、豊かな感性、情操を引き出し、結びつけさせたい。 制作を通して美術の楽しさを味わわせたい。視覚を養い、基礎的デッサンを身につける。 創造的発想に基づく内面の表現。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		制作に必要な道具を忘れないこと。 (6Fスケッチブック、図画鉛筆、消しゴム、絵の具セット一式等)					
到達目標		制作課題を受け止め表現することができる。					
成績評価方法		全制作作品の相対評価を軸に、出欠・遅刻・授業準備・授業態度を含めた総合評価とする。 作品(80%) + 出欠、遅刻、授業の準備、授業態度(20%)					
テキスト・参考書		美術・その精神と表現(現代美術社刊) - 貸し出し制					
メッセージ		美術の楽しさ、おもしろさ、深さを体験しよう。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1 ガイダンス・手のデッサン (1回) 2 石膏(幾何学的模様)デッサン (3回) 3 人物クロッキーA (4回) 人物クロッキーB (2回) 彩色(淡彩)			・美術の授業に関して留意すべき点を理解できる。 ・芸術の中で美術の特異性を理解できる。 ・制作に必要な道具、授業上の留意事項を理解できる。 ・形、量感、陰影、空間との関係が理解できる。 ・速写表現の要領を会得する。 ・しっかり見てモデルの特徴をとらえる。 ・線の強弱、デフォルメの試みができる。 ・淡彩画の要領を会得できる。				
前期中間試験			実施しない				
4 イラスト「人間」 ・導入構想のためのアイディアスケッチ ・整理・構成・表現方法の確認 (6回)			・イラストレーションを理解できる。 ・課題を受け止め具体的自己テーマを設定できる。 ・自己テーマにそって種々スケッチができる。 ・本番に向け作品化する為に整理し、構成できる。 ・表現方法を独創的に計画できる。				
前期期末試験			実施しない				
5 本番の制作(趣旨・感想文等を含む) (6回)			・計画的に着彩していくことができる。 ・粗雑な着彩にならないようにできる。 ・構図、配色、表現の工夫等満足ゆく表現ができたか。 ・テーマの客観的アピール度は? 完成度は? ・内面を表現する面白さ、難しさが体験できる。				
後期中間試験			実施しない				
6 樹木のある冬の風景・スケッチ・彩色 (6回) 7 自画像のデッサン (2回)			・冬の樹木を観察し樹の動きを表現できる。 ・冬景色の色数の少ない中から色を発見できる。 ・自己の内面に迫る自画像を描くことができる。				
後期期末試験			実施しない				

全学科			物理				
学年	第1学年	担当教員名	梅津 裕志				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		物理現象を実体験として理解し、それを数量的、数式的にとらえる能力を養う。科学的思考力を養うとともに、学ぶことの楽しさを実感してもらいたい。1学年では特に波動、静力学を扱う。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		四則演算(分数、比を含む)の筆記計算力が必要になります。副教材の問題を電卓を使わずに解けるよう、自習もして下さい。					
到達目標		単位変換等の基礎計算を科学表記を用いて行うことができる。 波動、静力学の具体的な現象を視覚的、数値的に捉えることができる。					
成績評価方法		合否判定: 4回の定期試験の平均が60点以上であること。 最終評価: 合否判定と同じ。					
テキスト・参考書		教科書: 物理 (東京書籍, 文部科学省検定教科書) 問題集: ネオパネル物理 + (第一学習社) 参考書: チャート式シリーズ新物理 (数研出版) 等					
メッセージ		用語や記号を覚えてしまうことで、授業の内容の理解も早まります。 授業は、新しい概念を得るだけでなく、誤った概念や先入観を正す場です。 皆さんの楽しい雰囲気、活発な発言が内容を豊かにします。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
科学量の表し方(3回) 数値表記(3回) 数値計算法(3回) 速度(3回) 演習(2回)				量記号、単位を記せる。 有効数字を理解し、科学表記で数値を記せる。 単位変換等の数値計算結果を有科学表記で表現できる。 物体の速度を計算できる。			
前期中間試験				実施する			
振動・波動の表し方(4回) 音・光の性質(4回) ドップラー効果(3回) 演習(3回)				波を図示(y-x図, y-t図)できる。 音と光の周波数や波長を計算できる。 ドップラー効果を計算できる。			
前期期末試験				実施する			
波の干渉(3回) 波の反射(3回) 固有振動(4回) 演習(4回)				波の干渉を図示できる。 自由端・固定端での波の反射の様子を図示できる。 弦や気柱内の固有振動を図示できる。			
後期中間試験				実施する			
重力、張力(2回) 垂直抗力(2回) 作用・反作用(2回) フックの法則(2回) 摩擦力(2回) 演習(4回)				物体にはたらく重力、張力を算出できる。 物体にはたらく垂直抗力を算出できる。 連結された物体にはたらく力を算出できる。 バネの伸びから働く力を算出できる。 物体にはたらく摩擦力を算出できる。			
後期期末試験				実施する			

全学科			保健				
学年	第1学年	担当教員名	三島 利紀・館岡 正樹				
単位数・期間		1単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		生涯にわたって心身の健康を保持増進するための実践力の育成をする。(計画的に運動に親しむ資質や能力との関連性を含む)・生涯学習の意義の明確化につながる。					
		釧路高専目標	E:50%,F:50%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		課題学習においてはプレゼンテーションをするのでパワーポイントを使って発表する予定のグループはノート型パソコン及びCD-ROMまたはメモリー等を準備すること。					
到達目標		・性に関する正しい知識と理解ができる ・課題学習においてテーマの決定からプレゼンテーションを行うまでの計画性と実践力を身につけることができる					
成績評価方法		・性教育は「私の出生秘話」と題して、両親、兄弟、祖父母等を通してのレポートを作成(30%) ワークシート2枚(各10%)、課題学習のプレゼンテーションにおいては、教員の評価(35%)と他グループによる学生の評価(15%)を合わせて総合評価を行なう。合否判定もこれに					
テキスト・参考書		教科書:現代保健体育(大修館) 資料:図説現代保健体育(大修館)					
メッセージ		5年生において、所属する学科の専門教育を生かした研究の集大成としての“卒業研究”があります。課題学習はその導入と考えております。常に、研究心を持って、何事にも積極的に取り組んでください。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
・ガイダンス、アンケート (2回) ・男女の性と性機能の違い(ワークシート) (2回) ・妊娠(ビデオ学習、ワークシート) (3回)				・1年の授業の流れと注意事項 ・同性及び異性の身体のしくみの違いを理解することができる。 ・受精から出産直前までの正しい知識を学ぶことができる。 ・各項目でワークシートを作成し授業内での個々の理解度を認識し、性に関する正しい知識を持つことができる。			
前期中間試験				実施しない			
・出産(ビデオ学習、ワークシート) (2回) ・沐浴体験、妊婦疑似体験(ワークシート) (2回) ・人工妊娠中絶(ビデオ学習、ワークシート) (2回) ・性感染症とその予防 (1回) ・まとめ (1回) (課題) ・レポート提出				・生命誕生についての正しい知識を学ぶことができる。 ・体験によって育児を実感することができる。 ・人工妊娠中絶の実態と生命の尊さを感じることができる。 ・身近で起こりうる病気であることを認識し、その実態と対処法を理解することができる。 ・「私の出生秘話」と題して、両親、兄弟、祖父母等を通してのレポート作成することにより自己肯定感を養うことができる。			
前期期末試験				実施しない			
課題学習 ・個々がテーマを選択・決定するし、同じテーマの者が集まり1～6人による班を編成する (1回) ・各種テキストやインターネットを利用し、各グループでテーマに沿った情報収集を行なう (5回)				・テキストを使い、自分の興味を引き出すことができる。 ・人とコミュニケーションを取りながら班を作ることができる。 ・リーダーが中心となり、グループ内で協力しながら資料収集を計画的に実行できる。			
後期中間試験				実施しない			
課題学習 ・各グループで情報収集したものをまとめ、資料を作成する (4回) ・10分程度のプレゼンテーションを行う (4回) (パワーポイントの使用可)				・情報資料をまとめ、発表用の資料を作ることができる。 ・グループ内で協力して作業することができる。 ・役割分担をし、他の人にわかりやすいプレゼンテーションができる。 ・他のグループの発表を聞き、評価することができる。			
後期期末試験				実施しない			

全学科			倫理・社会				
学年	第1学年	担当教員名	藤本 一司				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		・「聴く」ことは、人生を豊かにし、生きる力とよるこびをもたらすということを学ぶ。 ・「私」の方から、コミュニケーションを立ち上げる力というものを養う。					
		釧路高専目標	A:100%		JABEE目標		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		・教科書を読んで、自分なりに理解をしておいてください。					
到達目標		・「私の当然さ」を振り回さず、「私の当然さ」を疑うことができる余裕をもつ。 ・「笑顔」を他者に差し出し、コミュニケーションができる。					
成績評価方法		定期試験 60点以上 合格 定期試験:100% 授業への取組: ± 10%					
テキスト・参考書		教科書: 藤本一司『愉しく生きる技法 未知性・他者・贈与 』(北樹出版) 参考書: 藤本一司『介護の倫理 贈与・身体・時間 』(北樹出版) 藤本一司『倫理学への助走 「わかる」と「わからない」のあいだ 』(北樹出版)					
メッセージ		みなさんと楽しい時間を過ごしたいと思っています。					
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
夢と現実のあいだ(2) 外見は侮れない(2) 型を使いこなす(1) 未来も過去も「今・ここ」に(2)			正反対のものに同時に触れる大切さを理解できる。 不都合は意識しにくく外見に出ることを理解できる。 自分を守るための型というものを理解できる。 自分を動かすための「時間」のとらえ方を理解できる。				
前期中間試験			実施しない				
加害者？被害者？(2) 私はいつもすでに決断している(2) 無知の知を知る(2) 考えることを考える(2)			被害者の位置は、成熟しにくいことを理解できる。 平凡な日常のルーティーンの大切さを理解できる。 「わからないことをわかる」という位置を理解できる。 「考える」の次数を上げることを意味を理解できる。				
前期期末試験			実施する				
私の当然さはどのように誕生してきたか(2) 限界を知って、未来を拓く(2) 未知性を愉しむ(1) 私の外部に耳をすます(2)			自分の当然さを振り回すことの危うさを理解できる。 限界を知ることは、自由の条件であることを理解できる。 決着をつけると見失うものがあることを理解できる。 うぬぼれは自滅の条件であることを理解できる。				
後期中間試験			実施しない				
身体に敬意を払う(2) 物語が現実をつくる(2) 交換は楽しい(2) つながりを生きる(2)			身体は「わかっている」ということの意味をできる。 「思い込み」の危うさとよるこびを理解できる。 「もらう」ためには「あげる」、ということを理解できる。 もらったものを感受できる力の意味を理解できる。				
後期期末試験			実施する				